

1 学校教育目標

明るい子 強い子 考える子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・安全で笑顔あふれる学校 ・子供も教職員も生き生きと輝いている学校 ・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	(明るい子) 明朗で礼儀正しく、情操豊かで自他を尊重できる児童 (強い子) 健康で、きまりを守り、責任を果たす児童 (考える子) よく見、よく聞き、よく考えて自己表現し、行動する児童 めあてをもち、意欲的に学習する児童
○教師像	・子供の人権を守り、子供とともに汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師 ・課題意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(学校の現状)

○学級数19学級、児童数580名超、創立56周年を迎える。学区域は、南北に2kmと長く、中央を環七が東西に走り、学区を二分している。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

児童は、明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、規律が守られ、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。教職員は、若手教員が多く、一つ一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダードを軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいる

重点的な取組事項－1 学力向上

○昨年度の区学力テストでは、目標値通過率 国語93.4% 算数91.0% である。目標である85%を大きく上回った。領域別正答率でも、全ての項目で全国の数値を上回った。特に、「読むこと」の領域では、各学年で全国比5ポイント以上上回っており、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。今後更に読解力・思考力・活用力・応用力を高めるために、ICTの活用を含めた指導法の改善、学習材の工夫に取り組む必要がある。より多くの児童が目標値を通過できるよう、今後も個に応じた指導を充実させる。児童の習熟状況に応じた学習材、指導形態などの指導法を工夫・改善していく。

重点的な取組事項－2 豊かな心をはぐくむ 規律ある行動

○いじめに関しては、早期の発見・対処ができていた。今後もいじめ0、見逃し0を目指していく。褒められると「ありがとうございます。」と返事ができるなど、規律ある生活の中で、安定した心が育っていると考えられる。その素直な心・思いやりの心をより高めていく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心を育む	◎	◎	◎	◎	◎
3	健康な体づくり	◎	◎	◎	◎	◎

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ○読解力・活用力・応用力の育成		○区学力調査目標値通過率 国語 8 5 %以上 算数 8 5 %以上		区学力調査目標値通過率 国語 9 2 . 9 % 算数 9 0 . 8 %		目標とする通過率は 2 教科共に達成することができた。児童全員が「分かった」「できた」を味わわせること、全員が目標値を超えることは真の意味で目標としたい。全教員で分析し、一丸となり、課題に向かう。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継	AI ドリルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能中心	授業・パワーアップタイム 週に 2 回	・担任 ・授業：学習内容の定着を図るため、数問取り組む。 ・パワーアップタイム：個別に学内容の定着を図る必要がある内容について取り組む。	教員の自己評価 単元テスト (知識・技能系)	目標値を 80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	教員の自己評価 1 0 0 % 目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	各学年、決められた曜日に AI ドリルを活用した。特に、中学年算数の達成割合がよい。低学年、高学年で意識した活用が必要である。	○

2 継	足立スタンダードに基づいた授業展開	全児童 全教科	年間	・足立スタンダードの徹底 ・校内研究（4回）、小中連携（7回）での研究授業の実施、区内外の研究発表会への参加（区内1隣接区1） ・日常の授業観察と指導・助言（管理職・教科指導専門員）	授業公開 教員の自己評価 単元テスト	教員の自己評価 95%以上実施 児童の意識調査から「授業が分かる・楽しい」 目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	教員の自己評価 100% 授業が楽しい92% 目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	全教員が管理職・教科指導専門員の授業観察、足立スタンダードをもとにした授業を行った。低、高学年を中心にスタンダード虎の巻を活用し、更に意識して授業を行う必要がある。	○
3 継	個別指導（さかのぼり）	全児童 国語 算数	年間 15時間程度 低：木5 高：木6	・担任、専科、学習支援ボランティア ・習熟度別少人数のグループ学習を通して既習内容の習熟を図る	学力定着年度末確認テスト（2月）	通過率 国語 75% 算数 75% 以上の人数	目標値通過率 国語低学年 83% 中学年 82% 高学年 79% 算数低学年 84% 中学年 75% 高学年 72%	国語：漢字などの語彙獲得と読解の問題に取り組んだ。目標は超えているが、読解、表現については、引き続き重点をかける。 算数：高学年は目標に届かなかった。引き続き、文章・図から立式できるよう、思考力の向上を図る問題に取り組む。	○
4 継	寺子屋タイム	対象児童 各学級 5人程度、 各教科	毎週木 曜日放課後45分	・担任＋専科 ・教科書、計算ドリル、漢字ドリル等を活用して習熟、定着していない内容の補習を図る	単元テスト（知識・技能系）	目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	個別、グループで支援対象時に指導を行った。より定着を図っていく。	○

5 継	パワーアップタイム	全児童 算数	5校時 前の 10分間	・担任 ・東京ベーシックドリルやAIドリルなどを使い、学習内容の復習・確認を行い、定着を図る。	単元テスト (知識・技能系)	目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	AIドリルは曜日を決めて取り組んだ。各学年、算数の計算に重点的に取り組み、技能の定着が見られた児童がいたものの、徹底した時間活用には至らなかった。より意識を高める。	△
6 継	放課後補習	対象児童	随時	・担任に加えて、専科、学習支援ボランティア ・東京ベーシックドリルや計算ドリル等を活用して、学習の習慣化・学習内容の定着を図る	単元テスト (知識・技能系)	目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	単元ごとにつまずきのある児童に個別やグループで支援した。分析を生かし、より支援の質を高めていく。	○
7 継	ICTの活用	全児童 全教科 思考力 向上	年間	・担任、専科 ・児童がより分かるためにICTを活用した授業を行う	週の予定表 教員の自己評価	全教員が週3回以上ICTを活用した授業を行う	週3回ICTを活用した授業を行うについては、11月までが90%、12月以降は100%となった。	前年度に引き続き、校内研究のテーマを「思考し、表現する児童の育成～ICTを活用した授業づくり」と設定し、ICTの効果的な活用方法について深めていた。	◎
8 継	図書活動の充実～自力解決能力の向上～	全児童 全教科 全時間	年間	・学校図書館資料を活用して、年間10時間以上探究学習を行う ・教員・ボランティアによる読み聞かせ	教員の自己評価 読書カード 児童自己評価	探究学習が楽しい80%以上	探究学習が楽しい94%	図書館スーパーバイザーを活用し、図書館を使った探究活動に広がりや深まりが見られた。	◎
9 継	コツおはカード	全学年 全員	月1回 第2週目	・家庭学習の定着を図る。 低学年…30分以上 中学年…45分以上 高学年…60分以上	コツおはカードの提出内容 全児童の達成率の調査	各月において、家庭学習の目標時間90%以上の達成率	各月の家庭学習の目標時間達成率88%	概ね達成できていると言えるが、学級によって、差がみられる。	○

10 継	夏期補充	対象児童 各学年 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 各日60 分	・担任、専科、学習ボランティア ・学力調査で分析した、学習内容の補充をプリント・タブレット、リモート等を活用して理解を図る。	単元テスト (知識・技能系)	目標値を80%として通過率 低学年85% 中学年80% 高学年75% 以上の人数	目標値通過率 低学年 79.4% 中学年 82.5% 高学年 67.8%	対象児童に合う教材を用意し、対象児童を含めて、全体の底上げを図った。	○
---------	------	----------------------------------	---------------------------------	---	-------------------	--	---	------------------------------------	---

重点的な取組事項－ 2		豊かな心をはぐくむ 規律ある行動			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む 規律ある行動をする		学校は楽しい 9 5 % 自分を肯定的に捉えられる 9 0 % みそあじ全項目 9 0 %	学校は楽しい 9 9 % 自分には、よいところがある 9 7 % みそあじ全項目 8 7 %	前年度よりわずかだが、自己肯定感が高まった。引き続き、自己肯定感を高め、挑戦意欲や自他を認め・励ます力を高めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	学校は楽しい 9 5 % 自分を肯定的に捉えられる 9 0 %	・ふれあい月間の取組年 3 回 ・道徳授業の充実 ・課外スポーツクラブ・金管クラブ	学校は楽しい 9 9 % 自分には、よいところがある 9 7 % みそあじ全項目 8 7 %	学校が安全で楽しい場所であること、自分の居場所があり、自分の努力が認められていると捉えているのは、とてもよいことである。	○

思いやりの心を育てる	仲間との関わりが良好 90%	・きょうだい班集会、全校遠足 ・きょうだい班活動 ・児童集会	児童会活動は、楽しい94.3%	学校や児童会、行事に対して95%近くの児童が肯定的に捉えている。行事や様々な活動を通して、異学年を含めて児童がよりよい関わりをもてるよう引き続き工夫していく。	○
読書に親しみ豊かな心を育む	進んで読書をする85%	・朝読書週1回 ・読書教室(1・2年) ・読書月間の設定	進んで読書をする73%	昨年度より、10%以上伸びた。依然として進んで読書をしている児童は、7割強に留まった。引き続き読書のよさを実感できる指導・環境づくりを心掛けると共に、学習に図書を活用していく。	△
規律ある行動をする	み(身支度) そ(掃除 外遊び) あ(挨拶 返事) じ(時間を守る) 各項目90%	・学級・学年・全校指導での指導の徹底、 ・生活習慣強化週間(月1回 1週間)の実施	み・身支度、名札 72% そ・そうじ、外遊び92% あ・あいさつ、返事96% じ・時間を守る 90%	挨拶、返事などの基本的な態度はよくできている。自ら挨拶できる児童に育てていく。	○

重点的な取組事項－3		健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上 日常的に運動に親しむ児童の育成		全種目の70%で区平均を上回る 児童の自己評価 項目 90%以上	運動が好きと答えている児童 83%	70%の種目で区平均を上回ることはできなかった。校庭が使えない中、屋上での縄跳びを徹底し、俊敏性、巧緻性の高まりは期待できる。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体力向上	70%の種目数で区平均を上回る。	・長縄跳び、持久走の取組、体育朝会の計画的な実施と実施方法の工夫・改善 ・調査結果を基にして強化領域の決定（投力・柔軟性）	都の平均を上回った種目は、男女の各学年伸び96種目中、54種目の56%にとどまった。	70%の種目で都平均を上回ることとはできなかったが、と平均を56%の種目で上回ったことは、評価できる。校庭が使えない中、屋上での縄跳びを徹底し、俊敏性、巧緻性の高まりは期待できる。引き続き、柔軟運動と投げる動作を体育の授業に取り入れ、高めていく。	△
運動に親しむ 運動の日常化	外遊びを進んでする運動することが好き 各項目自己評価90%以上	・体育指導技術向上のための実技研修 ・外遊びの奨励 ・のびのびタイムの実施	外遊びを進んでする 90% 運動することが好き 83% 体育は楽しい 94%	屋上、体育館でクラス、学年がまとまって運動遊びに取り組んだ。運動の日常化につながった。屋上、体育館で短縄、長縄に取り組んだ成果が長縄大会で表れた。	○

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度も、設定されている目標値を90%の児童が通過しており、その数値を維持していることは、教師と児童の努力、家庭・地域の教育力・ご努力があるからこそと評価し、感謝している。未通過に起因する項目として、文章読解力・漢字、言葉などの語彙力、基礎的計算技能が挙げられる。今後、これらの定着に照準を絞り、全教員が共通理解し、授業改善を図っていく。全児童が分かる楽しさ・できる喜びを味わえるようにする。

今後の授業改善は、基礎基本の定着をより意識し、足立スタンダード虎の巻をもとに「分かること・できること」で楽しさや喜びを味わうようにする。また、ICTも活用した個に応じた指導を展開することも要となる。

しかし、上記のことは、心の安定・自己肯定感が不可欠である。授業で児童が「分かる・できる」に加えて、安心して努力し、それが認められることが大切である。授業のみならず、全教育活動で児童の心の安定・自己肯定感の向上を図っていく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

本校の学校教育へのご理解・ご支援に深く感謝申し上げます。

本校児童の授業中の学習姿勢（集中して話を聞く・発言する・ノートを書く）のよさは、教員の指導の積み重ねのみならず、家庭教育、地域のあり方にも大きく起因していると考えております。そして、家庭、地域の皆様が学校と歩調を合わせていただいていたからこそ実感しております。ま

た、今年度は、各教科の学習にタブレットを用いた学習を多く取り入れました。これからの授業には ICT をどう取り入れるかが必須だからです。これらの授業は、参観等でご覧いただけたかと思います。令和7年度も引き続きこの学習スタイルは継続させます。
今後も児童の成長のために地域のお力、家庭のお力をお借りしたいと存じます。
どうぞ引き続きよろしくお願いします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校は、家庭・地域と共にある。地域や家庭の思いを受け止められる学校であらねばならない。
学校は家庭はもとより、地域に門を開き、PTA や開かれた学校づくり協議会などと連携し、共に児童を育てていくことを考えていく。
家庭と地域を大切にし、家庭と地域を愛する児童を育成していく。